

【問題1の解答例】

最初の記述から、太いパープルの尾根線に上がったことは間違いないでしょう。問題はどこで南西方向の尾根に乗ったかです。道が地図にないと書いてるので、a～eまで、さまざまな可能性が考えられます。ヒントは、少し進むと送電線を横切る点です。このことからdの尾根に入り、fで送電線と交差したと考えられます。

その後のピークは尾根の形状からgでしょう。それを東向きに進むと、確かに尾根が細かく



分岐しています。その後、送電線とクロスする尾根はいくつかありますが、その時の尾根の方向が120度で比較的平坦であることから、jだと絞り込むことができます。

Column

現在地把握は最後の確認が肝

フィールドでの現在地把握がある程度できるようになった時、いちばん注意しなければならないのが、似たような場所の取り違いです。常に「他の可能性はないか」を考え、またひとつの情報では絞りきれない時には複数の情報に注意を向けることで、可能性をひとつに絞り込みます。

【問題2】のケースでは、最後に送電線と交差する尾根は少なくとも3カ所ありました。さらに「南東方向」と「平坦になった」というふたつの特徴を読み取ることで、現在地が絞り込めました。

場合によっては、周囲に見える特徴だけではひとつに絞り込めないこともあります。こんな場合も、「たぶんここだろう」と思い込むのではなく、「aかもしれないし、bかもしれない」というふうの可能性のある場所を平等に扱って、それをその後の地図読みに生かすことが確実な現在地把握につながります。